



ふじ た なお ひろ  
藤田 尚大

生年月 1990年6月宮崎県生まれ  
最終学歴 2015年 京都大学大学院  
工学研究科修了  
業務経歴 2015年 竹中工務店入社  
2016年 大阪本店設計部  
2017年 京都支店作業所  
2019年 大阪本店設計部  
●担当した主なプロジェクト  
2016年 ローレルタワー梅田ウエスト  
2016年 山荘 京大和・パーク ハイ  
アット 京都 (2017-施工)  
2017年 ジョルノ・プラウドタワー  
堺東  
2017年 本願寺津村別院北御堂耐震  
改修  
2019年 日亜化学工業辰巳工場TNI1棟  
2020年 IHIインフラスクエア堺新事  
務所  
2020年 THE NORTH RESIDENCE  
2021年 パティナ大阪  
2021年 某大規模複合施設  
2022年 某エネルギー施設対応

■青年技術者のことは

私の建築のルーツは少年時代、実家の新築を手伝った経験にある。建築には作り手のドラマがあり、その記憶を留めることが建築の一つの役割であるという考えは、そのころから変わらない。この思いを確かなものとしたのが入社後の二度の施工管理の経験であり、自身の設計姿勢として標榜する「開かれた構造設計」という思想の原点にもなっている。私の描く理想の構造設計者像は、専門領域に没頭するスペシャリストではなく、意匠や設備領域、施工、ひいては社会にまで働きかけ、説明を尽くすことのできる姿である。この「開かれた構造設計」という思想のもと、セオリーだけに囚われず、想像力を働かせ、知恵を絞り、周りを巻き込んで、どこかにある最良の選択肢を追求する姿勢を実践し、作り手のドラマを自らの作品に刻み続けている。そしてキャリアとしては、若手から中堅へ。土壁にまみれ、大工の手仕事を見つめていたいつかの少年は今、建築の未来をどこまで見通せているだろうか。

■すいせん者

前田達彦  
(株)竹中工務店 大阪本店設計部  
構造第4部門 グループ長

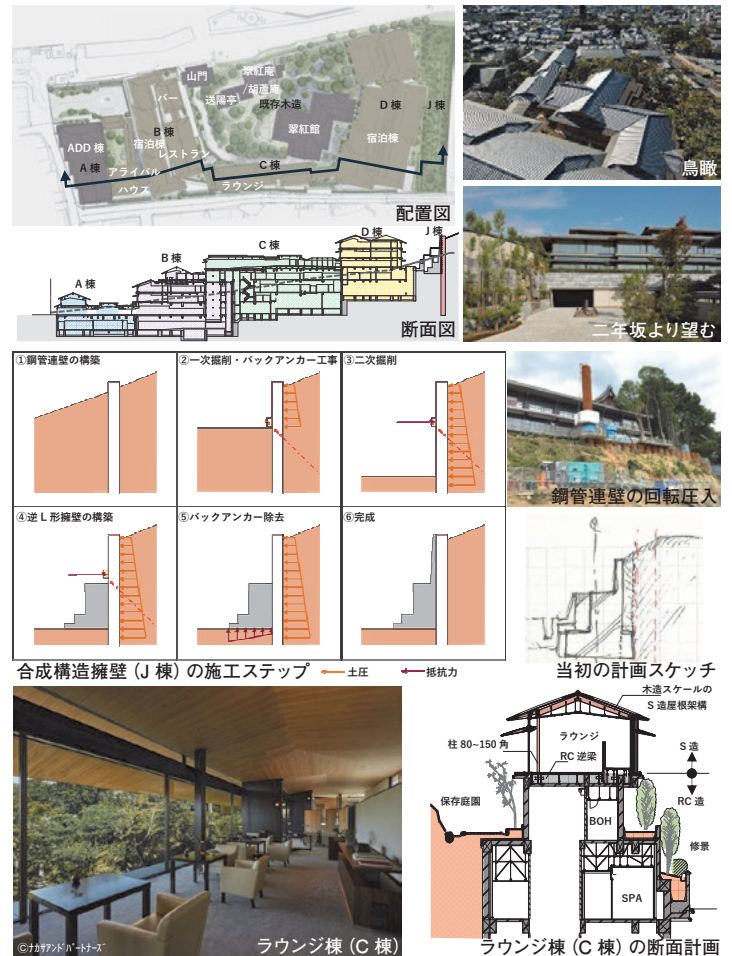
古都の裾野に連なる和風建築群 —山荘 京大和・パーク ハイアット 京都—

■建築概要

古都・京都東山の裾野に広がる歴史的な木造建築群と庭園を有する老舗料亭「山荘 京大和」の敷地に、分棟式のホテルを新築する計画である。景観に配慮して高さやボリューム感を抑えながらも、ラグジュアリーホテルの要求に合致した建築機能を備えるべく、20mを超える大深度地下にバックヤード機能の多くを沈め、地上には高さを抑えた軒の深い和風建築を分棟配置した。木造建築群や庭園と調和して上質な空間体験を生む。

■構造概要

高低差28mの敷地における計画実現の要となるのが、斜面最上部の巨大擁壁（J棟：建築用途は備蓄倉庫）である。回転圧入工法による鋼管連壁と、逆L形RC造擁壁の合成構造の開発・設計を担当し、施工時の山留め機能を兼用することで安全な掘削工事に貢献した。この擁壁は土砂災害特別警戒区域の解除にも寄与している。またラウンジ棟（C棟）の設計も担当し、地下のRC造と地上のS造で通り芯が異なる複雑な建築計画に対し、必要最低限の構造要素を精査・配置し、空間利用の最大化に貢献した。ジョブローテーションで施工管理も担当し、自らの設計を自分の手で施工し、完成に導く経験を得た。



鉄の魅力を追求めた新たなオフィス —IHIインフラスクエア堺新事務所—

■建築概要

橋梁・水門メーカーの工場敷地内に事務所ビルを新築する計画である。「明・広・快」をコンセプトとし、のこぎり形状の屋根によるハイサイドライトや、4つの大きな吹抜けを介して繋がるシームレスなオフィス空間が特徴である。

■構造概要

コンセプトに対する構造の答えとして、準耐火建築物であることを活かして鉄骨を露出させ、軽やかさと安心感を併せ持つ鉄骨造の魅力を中心に押し出した。ブレースを窓の少ない外周に集約し、中柱を厚肉かつ小径化することで、間仕切りのないオープンな執務空間を実現した。2, 3階は大梁とスラブの天端、大梁と小梁の下端を揃え、天井高を最大化し直天空間の見上げの美しさに配慮した。屋根架構は、応力伝達に配慮して勾配屋根レベルに合わせる部材と、見上げに配慮してレベルを揃える部材を整理し、ブレースのガセットの向きや母屋の接合部までディテールに拘った。吹抜けの階段やシャフトレスEVのレール支持架構などの二次部材、手摺やサインに至るまで、一貫して軽快で洗練された鉄のデザインを追求した。

